

2016年度  
(2016年4月～2017年3月)  
**特別勘定の現況**

**決算のお知らせ**

**ご契約者の皆様へ**

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。  
さて、弊社は去る3月31日に決算を迎えましたので、ここに特別勘定の運用状況をご報告申し上げます。  
今後とも何卒ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

【利用する投資信託の委託会社】

**アライアンス・バーンスタイン株式会社**

アライアンス・バーンスタイン株式会社は、米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタイン\*の日本拠点です。アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーは1971年の設立以来、資産運用会社として長年にわたる歴史を有し、世界各国の主要都市に業務展開を行い、個人投資家や富裕層、機関投資家向けに投資信託や年金運用等の投資サービスを提供しています。グローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、株式、債券、マルチアセット、オルタナティブ運用など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

\*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。



**アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社**



アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
  - ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
  - ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
  - ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
  - ・ 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)(\*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
  - ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。
- \* 金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

# 年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の現況（2016年4月～2017年3月）

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

## 運用環境 [ 2016年4月～2017年3月 ]

### 【日本株式市場】

日本株式市場は上昇しました。年度末の東証株価指数(TOPIX)は前年度末比+12.28%の1,512.60ポイント(前年度末1,347.20ポイント)となりました。年度の前半は、6月末に英国の国民投票でEU(欧州連合)離脱派が勝利したことを受けて急落する局面があり、一時1,200ポイントを下回りました。年度の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて急落する局面がありましたが、米新政権の政策への期待などから市場は上昇し、1,500ポイントを超えました。1月に米新政権が発足すると、政策運営への不透明感と期待とが錯綜し、その後はもみ合う展開となりました。

### 【外国株式市場】

米国株式市場は上昇しました。年度末のNYダウ工業株30種は前年度末比+16.84%の20,663.22ドル(前年度末17,685.09ドル)となりました。年度の前半は、6月末に英国の国民投票の結果などを受けて急落する局面があり、一時17,000ドル近辺まで下落しましたが、買戻しの動きと堅調な経済指標から上昇に転じました。年度の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、米新政権の政策への期待などから市場は大幅に上昇しました。その後、米新政権の政策運営への不透明感から軟調に推移する場面もありましたが、3月には21,169.11ドルを付け、期を通じては上昇して終わりました。欧州株式市場は上昇しました。市場別の年間の騰落率は、独DAX指数+23.55%、英FTSE100指数+18.59%、仏CAC40指数+16.82%となりました。6月末の英国の国民投票の結果などを受けて急落する局面がありましたが、年度の後半には、米国株式市場に連れて上昇しました。

### 【日本債券市場】

日本債券市場は、10年国債の金利が上昇(価格は下落)し、年度末には0.065%(前年度末△0.050%)となりました。年度の前半は、4月から6月にかけて日銀の追加金融緩和期待への高まりなどを背景に、金利は低下基調で推移しました。6月末の英国の国民投票の結果などを受けて金利は更に低下し、△0.300%となる場面がありました。その後、7月から8月にかけて、財務相が40年国債増発の検討を表明したことなどから金利は上昇に転じ、9月には日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の導入を発表したことなどを受けて、0%近辺で推移しました。年度の後半は、米新政権の政策への期待などから米国金利が上昇したことによって国内金利も上昇しました。

### 【外国債券市場】

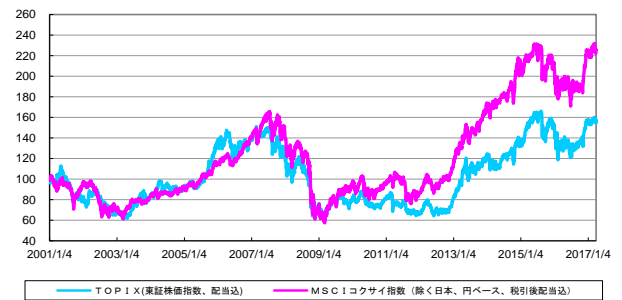
米国債券市場は、10年国債の金利が上昇(価格は下落)し、年度末には2.387%(前期末1.769%)となりました。年度前半は、6月末に、英国の国民投票の結果などを受けて金利は急低下する局面があり、一時1.3%近辺まで低下しました。年度後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、米新政権の政策への期待、インフレ率上昇の観測、さらには、FOMC(連邦公開市場委員会)で1年ぶりの利上げが決まったことなどを背景に金利は上昇しました。その後は、金利上昇への期待と、新政権の政策運営への不透明感から揉み合いました。年度中に、FRB(米連邦準備制度理事会)による、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標引き上げが2回行われ、計0.500%引き上げの年0.750～1.000%となりました。欧州債券市場は、独10年国債の金利が上昇(価格は下落)し、年度末には0.328%(前年度末0.153%)となりました。年度前半は、EUが域内の景気・物価見通しを下方修正したこと、英国の国民投票の結果などから金利は低下し、△0.2%を下回りました。年度後半は、米新政権の政策への期待、インフレ率上昇の観測などを背景に金利は上昇し、0.5%超となることもありました。ECB(欧州中央銀行)の政策金利は据え置かれ、年0.000%となっています。

### 【外国為替市場】

米ドル/円相場は、円高米ドル安となり、年度末には112.19円(前年度末112.68円)となりました。年度前半は、米国の早期利上げ観測の後退、英国の国民投票の結果などを受けて円高で推移し、100円近辺の水準となることがありました。期の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、米新政権への期待からドルが買われました。その後も、12月には堅調な米景気指標や、FOMCで1年ぶりの利上げが決まったことなどを背景に円安が進行し、118.18円を付きました。年度末に向けて米国の金利上昇への期待と米新政権の政策運営への不透明感から揉み合い、円高米ドル安で推移しました。ユーロ/円相場は、円高ユーロ安となり、期末には119.79円(前期末127.70円)となりました。期の前半は、英国の国民投票の結果などを受けて円高に推移し、一時111.22円となりました。期の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、円、ユーロとも対ドルで下落しましたが、円の下落幅がユーロよりも大きかったことなどから、対ユーロで円安基調となりました。期末に向けて欧州における反EUの政治リスクへの懸念と欧州の金利上昇との間で揉み合いましたが、期を通じては円高ユーロ安となりました。

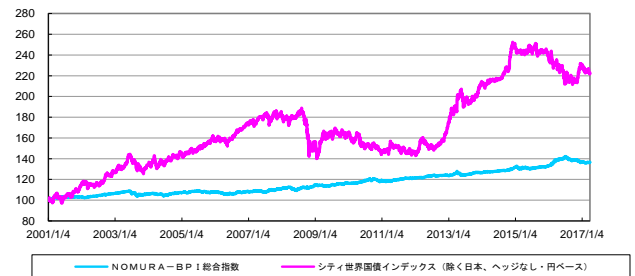
### 日本と外国の株式市場の推移

\*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

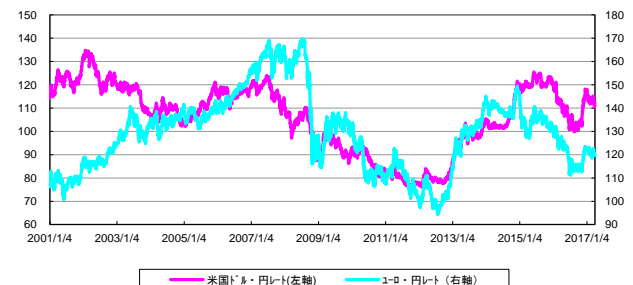


### 日本と外国の債券市場の推移

\*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



### 外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先： カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

# 年金払定期付積立型変額保険

## 特別勘定の現況（2016年4月～2017年3月）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

### 特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託		参照ページ
			投資信託名	委託会社	
ライフ プロデュース30※1	世界株式 30%	主として日本を含む世界各国の株式および債券を主要投資対象とする投資信託に投資することにより、中長期的に安定した投資成果を目標として運用を行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。基本資産配分は、株式30%、債券70%とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。	アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド<適格機関投資家私募>	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社	7 (下段)
	世界債券 70%		適格機関投資家私募アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド-1	アライアンス・バーンスタイン株式会社	8 (下段)
ライフ プロデュース50※1	世界株式 50%	主として日本を含む世界各国の株式および債券を主要投資対象とする投資信託に投資することにより、中長期的に安定した投資成果を目標として運用を行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。基本資産配分は、株式50%、債券50%とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。	アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド<適格機関投資家私募>	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社	7 (下段)
	世界債券 50%		適格機関投資家私募アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド-1	アライアンス・バーンスタイン株式会社	8 (下段)
ライフ プロデュース70※1	世界株式 70%	主として日本を含む世界各国の株式および債券を主要投資対象とする投資信託に投資することにより、中長期的に安定した投資成果を目標として運用を行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。基本資産配分は、株式70%、債券30%とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。	アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド<適格機関投資家私募>	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社	7 (下段)
	世界債券 30%		適格機関投資家私募アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド-1	アライアンス・バーンスタイン株式会社	8 (下段)
特別勘定名	基本資産 配分比率	利用する投資信託			参照ページ
		投資信託名	委託会社		
ライフプロデュース 日本株式	日本株式 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンド-1	アライアンス・バーンスタイン株式会社		6 (下段)
ライフプロデュース 世界株式※2	世界株式 100%	アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド<適格機関投資家私募>	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社		7 (下段)
ライフプロデュース 世界債券	世界債券 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド-1	アライアンス・バーンスタイン株式会社		8 (下段)

※ 特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

※1 「ライフプロデュース30」で投資していた「適格機関投資家私募アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス(保守型)」、「ライフプロデュース50」で投資していた「適格機関投資家私募アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス(中立的)」、「ライフプロデュース70」で投資していた「適格機関投資家私募アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス(積極型)」は、2015年10月29日に償還され、2015年10月より新たに「アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド<適格機関投資家私募>」および「適格機関投資家私募アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド-1」に投資しております。

※2 当特別勘定で投資していた「適格機関投資家私募アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ-3」は、2015年10月に全部売却され、2015年10月より新たに「アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド<適格機関投資家私募>」に投資しております。

・3ページおよび6ページ～8ページに記載されている「\*1～\*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

#### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

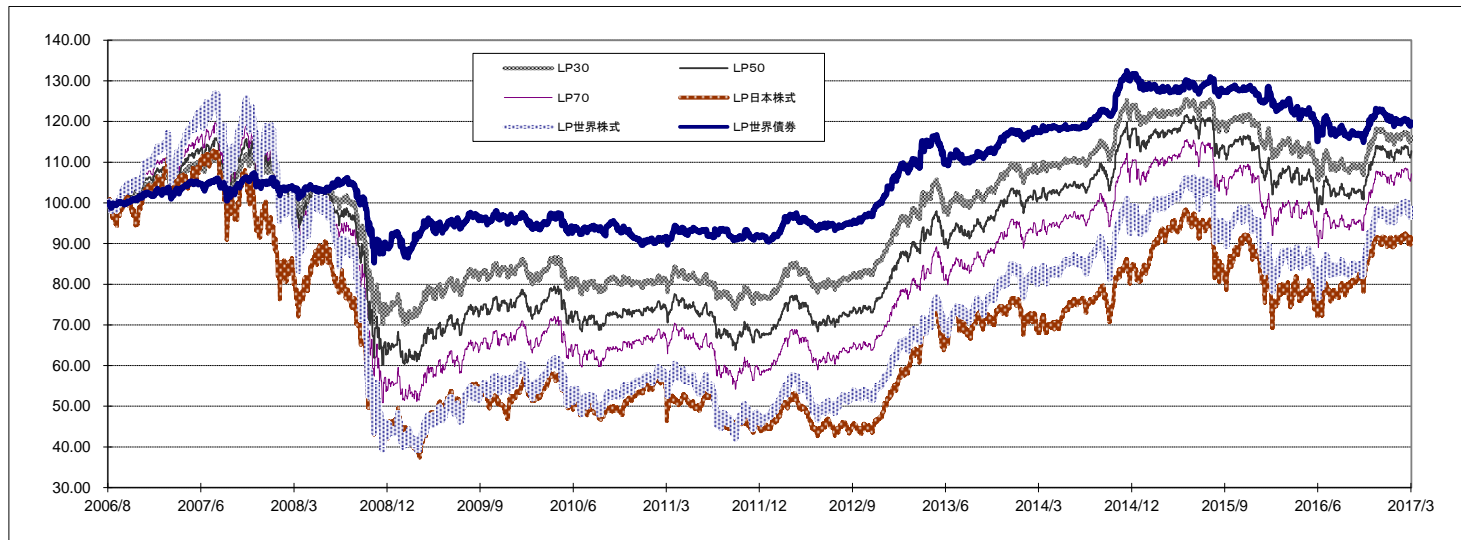
# 年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の現況（2016年4月～2017年3月）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

## 特別勘定の運用状況 [ 2017年3月 末日現在 ]

### ■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



※ 特別勘定のユニットプライスは、2006年8月30日のプライスを100.00として計算しています。

※ 特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページにて各営業日にご確認いただくことができます。

### ■特別勘定資産の内訳

特別勘定名	資産残高 金額(千円)
ライフプロデュース30	1,946,143
ライフプロデュース50	15,192,670
ライフプロデュース70	7,603,551
ライフプロデュース日本株式	2,709,517
ライフプロデュース世界株式	7,940,811
ライフプロデュース世界債券	3,296,251

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。

#### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

# 年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の現況 (2016年4月～2017年3月)

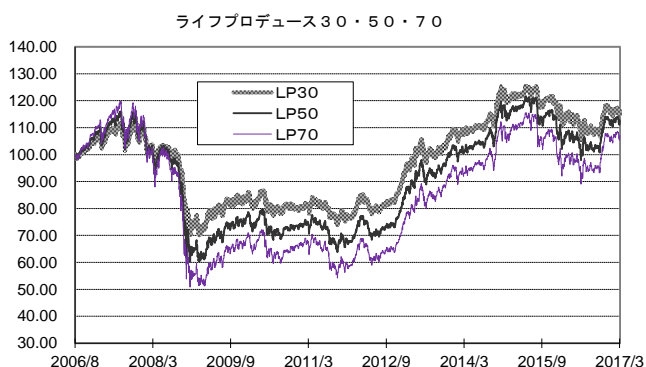
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

## 特別勘定 ライフプロデュース30・50・70 [2017年3月 末日現在]

### ■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2016年度のユニットプライス騰落率はライフプロデュース30が+0.25%、ライフプロデュース50が+3.39%、ライフプロデュース70が+6.51%となりました。組み入れている株式資産については上昇、債券資産については下落し、主に株式資産の上昇がユニットプライスにプラス寄与しました。資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。今後も引き続き、上記運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

### ■特別勘定のユニットプライスの推移



		ライフプロデュース 30	ライフプロデュース 50	ライフプロデュース 70
ユニット プライス	2017年3月末	116.22	112.73	107.13
	2016年12月末	117.48	113.01	106.54
	2016年9月末	108.14	101.87	94.14
	2016年6月末	108.16	100.97	92.43
	2016年3月末	115.94	109.03	100.58
騰落率 (%)	2015年12月末	119.43	114.00	106.63
	過去1ヵ月	0.33	0.47	0.62
	過去3ヵ月	▲1.06	▲0.25	0.55
	過去6ヵ月	7.47	10.66	13.79
	過去1年	0.25	3.39	6.51
	過去3年	6.67	10.18	13.66
	設定来	16.23	12.73	7.13

※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

### ■特別勘定資産の内訳

項目	ライフプロデュース30			ライフプロデュース50			ライフプロデュース70		
	金額(千円)	比率(%)	基本資産(%)	金額(千円)	比率(%)	基本資産(%)	金額(千円)	比率(%)	基本資産(%)
現預金・その他	82,698	4.2	—	616,121	4.1	—	304,724	4.0	—
その他有価証券	1,863,444	95.8	100.0	14,576,548	95.9	100.0	7,298,827	96.0	100.0
世界株式	595,718	30.6	30.0	7,496,381	49.3	50.0	5,142,441	67.6	70.0
世界債券	1,267,726	65.1	70.0	7,080,167	46.6	50.0	2,156,385	28.4	30.0
合計	1,946,143	100.0	100.0	15,192,670	100.0	100.0	7,603,551	100.0	100.0

※ 特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

### ■特別勘定資産の運用収支状況

項目	ライフプロデュース30	ライフプロデュース50	ライフプロデュース70
	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)
利息配当金収入	540	3,560	5,549
有価証券売却益	—	—	—
有価証券評価益	39,499	492,698	319,889
有価証券償還益	—	—	—
為替差益	—	—	—
その他収益	—	—	—
有価証券売却損	—	—	—
有価証券評価損	10,790	▲180,438	▲221,581
有価証券償還損	—	—	—
為替差損	—	—	—
その他費用及び損失	1,826	5,884	3,124
収支差計	27,423	670,812	543,895

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。

#### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

# 年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の現況 (2016年4月～2017年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## 特別勘定 ライフプロデュース日本株式 [2017年3月 末日現在]

### ■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2016年度のユニットプライス騰落率は+14.09%となりました。(以下、バリュース株Mファンドは委託会社独自のセクター別、グロース株MファンドはGICSセクター別で記載。)  
当期の日本株式市場は、2016年7月上旬にかけては、イギリスの欧州離脱決定や為替の円高傾向などから投資家心理に左右される不安定な展開となりました。その後は、投資家不安の後退や米国大統領選挙で当選したトランプ氏の政策への期待、為替の円安傾向などを背景に、おおむね堅調に推移しました。利用する投資信託のベンチマークとの比較では、バリュース株Mファンドでは、テクノロジーにおける銘柄選択などがプラス要因となりました。グロース株Mファンドでは、情報技術における銘柄選択などがマイナス要因となりました。各マザーファンドに対する基本資産配分を概ね維持しました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

### ■特別勘定のユニットプライスの推移



		ライフプロデュース日本株式
ユニット プライス	2017年3月末	90.00
	2016年12月末	89.78
	2016年9月末	79.37
	2016年6月末	74.62
	2016年3月末	78.89
	2015年12月末	88.29
騰落率 (%)	過去1ヵ月	▲0.35
	過去3ヵ月	0.25
	過去6ヵ月	13.38
	過去1年	14.09
	過去3年	25.57
	設定来	▲10.00

※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

### ■特別勘定資産の内訳

項目	ライフプロデュース日本株式	
	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	114,287	4.2
その他有価証券	2,595,229	95.8
合計	2,709,517	100.0

※ 特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。  
なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下(参考情報)に記載しております。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

### ■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	10,280
有価証券売却益	—
有価証券評価益	340,758
有価証券償還益	—
為替差益	—
その他収益	—
有価証券売却損	—
有価証券評価損	—
有価証券償還損	—
為替差損	—
その他費用及び損失	—
収支差計	351,038

## 《参考情報》 適格機関投資家私募 アライアンス・パースタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンドー1 [2017年3月 末日現在]

### ■利用する投資信託について

【投資信託名】 適格機関投資家私募 アライアンス・パースタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンドー1  
【委託会社】 アライアンス・パースタイン株式会社  
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。バリュース株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従い「バランス」を行います。

※ 当投資信託は、主として、  
パースタイン・日本ストラテジック・バリュース株・マザーファンド受益証券、  
アライアンス・日本大型成長株・マザーファンド受益証券に投資します。

### ■当投資信託の詳細情報

#### ○ 資産配分比率

	基本資産配分	投資信託
バリュース株Mファンド*	50.00%	50.19%
グロース株Mファンド**	50.00%	49.86%
短期金融資産等	0.00%	-0.05%
合計	100.00%	100.00%

\* バリュース株Mファンド: パースタイン・日本ストラテジック・バリュース株・マザーファンド受益証券

\*\* グロース株Mファンド: アライアンス・日本大型成長株・マザーファンド受益証券

### ■当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	▲0.26%	0.56%	14.68%	15.86%	30.54%	1.81%
BM	▲0.59%	0.57%	15.60%	14.69%	33.67%	17.37%
差	0.32%	▲0.01%	▲0.93%	1.17%	▲3.13%	▲15.56%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したのとして計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、TOPIX(東証株価指数 配当込)<sup>2</sup>です。

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

#### ○ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	業種	投資信託
1	日本電信電話	情報・通信業	4.51%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.88%
3	日本たばこ産業	食料品	3.52%
4	パナソニック	電気機器	2.65%
5	ブリヂストン	ゴム製品	2.53%
6	キーエンス	電気機器	2.43%
7	本田技研工業	輸送用機器	2.22%
8	SUMCO	金属製品	2.08%
9	JXホールディングス	石油・石炭製品	2.02%
10	三菱商事	卸売業	1.97%
合計			27.82%
組入銘柄数			108銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび6ページ～8ページに記載されている「\*1～\*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

# 年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の現況 (2016年4月～2017年3月)

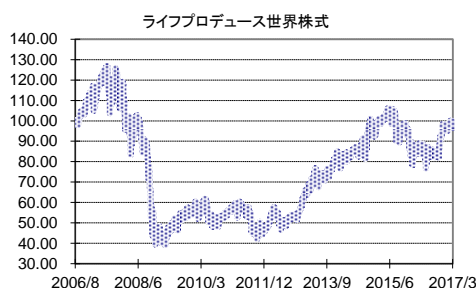
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## 特別勘定 ライフプロデュース世界株式 [2017年3月 末日現在]

### ■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2016年度のユニットプライスの騰落率は+11.50%となりました。  
当期の日本を含む世界株式市場は、良好な経済環境や原油価格の上昇などに支えられたことに加え、米大統領選後トランプ新政権の経済政策による成長期待から上昇しました。利用する投資信託については、ベンチマーク比でマイナスとなりました。当期の世界株式市場は純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、これらの銘柄を多めに保有していたことはプラスに寄りましたが、業種別では下落した小売を多めに保有していたこと、個別銘柄では医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンスや電気通信サービスにおける銘柄選択がマイナスに寄りました。地域別では全体としてわずかながらプラス寄与度となりました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

### ■特別勘定のユニットプライスの推移



	ユニットプライス	ライフプロデュース世界株式
ユニット プライス	2017年3月末	98.57
	2016年12月末	96.84
	2016年9月末	82.96
	2016年6月末	80.31
	2016年3月末	88.40
2015年12月末	95.71	
騰落率 (%)	過去1ヵ月	0.83
	過去3ヵ月	1.79
	過去6ヵ月	18.82
	過去1年	11.50
	過去3年	19.27
	設定来	▲1.42

### ■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	6,621
有価証券売却益	—
有価証券評価益	460,000
有価証券償還益	—
為替差益	—
その他収益	—
有価証券売却損	—
有価証券評価損	▲427,931
有価証券償還損	—
為替差損	—
その他費用及び損失	8,068
収支差計	886,485

※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

### ■特別勘定資産の内訳

項目	ライフプロデュース世界株式	
	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	322,246	4.1
その他有価証券	7,618,564	95.9
合計	7,940,811	100.0

※ 特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。  
なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下《参考情報》に記載しております。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

## 《参考情報》アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド <適格機関投資家私募> [2017年3月 末日現在]

### ■利用する投資信託について

【投資信託名(※1)】 アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド <適格機関投資家私募>  
【委託会社(※2)】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の証券取引所上場株式への投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指します。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。  
※ 当投資信託は、主としてアクサ IM・グローバル(日本除く)株式マザーファンド受益証券ならびにアクサ ローゼンバーク・日本株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

### ■当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	0.97%	2.16%	20.38%	13.06%	—	10.82%
BM	0.80%	2.59%	20.52%	14.93%	—	13.81%
差	0.17%	▲0.44%	▲0.14%	▲1.87%	—	▲2.99%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2003年9月30日)を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス<sup>3)</sup>(配当込み・クロス・日本円換算)です。

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

### ■マザーファンド受益証券の詳細情報

#### ○ 組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	APPLE INC.	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	1.90%
2	ALPHABET INC-CL A	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.50%
3	JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフ	1.42%
4	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.09%
5	PFIZER INC.	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフ	1.01%
6	INTEL CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	0.94%
7	JPMORGAN CHASE & CO.	アメリカ	銀行	0.93%
8	PEPSICO INC.	アメリカ	食品・飲料・タバコ	0.92%
9	INTL BUSINESS MACHINES CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	0.89%
10	VERIZON COMMUNICATIONS INC.	アメリカ	電気通信サービス	0.82%
	合計			11.42%
	組入銘柄数			800銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

※1.2 「適格機関投資家私募アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ-3」(委託会社:アライアンス・バーンスタイン株式会社)は、2015年10月に全部売却されました。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび6ページ～8ページに記載されている「\*1~\*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

# 年金払定期付積立型変額保険

## 特別勘定の現況 (2016年4月～2017年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

### 特別勘定 ライフプロデュース世界債券 [2017年3月 末日現在]

#### ■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2016年度のユニットプライス騰落率は▲4.50%となりました。  
 当期の世界の債券市場は、2016年6月にイギリスの欧州連合離脱決定をうけ、価格は上昇(利回りは低下)しました。その後、米連邦準備理事会による利上げ観測の高まりなどから価格は下落(利回りは上昇)しましたが、その後の利上げペースの加速について慎重な姿勢が示されたことなどから期末にかけては価格は上昇(利回りは低下)しました。利用する投資信託のベンチマークとの比較では、ユーロ圏の国債の銘柄選択などが主なマイナス要因となりました。一方、投資適格社債やインフレ連動債を組入れたセクター配分、ユーロ圏や日本の残存期間戦略、イギリスを高めめの比率とした国別配分などが主なプラス要因となりました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

#### ■特別勘定のユニットプライスの推移



		ライフプロデュース世界債券
ユニット プライス	2017年3月末	119.79
	2016年12月末	122.71
	2016年9月末	116.62
	2016年6月末	118.31
	2016年3月末	125.43
	2015年12月末	126.68
騰落率 (%)	過去1ヵ月	0.09
	過去3ヵ月	▲2.38
	過去6ヵ月	2.72
	過去1年	▲4.50
	過去3年	1.31
	設定来	19.80

#### ■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	2,555
有価証券売却益	—
有価証券評価益	▲36,956
有価証券償還益	—
為替差益	—
その他収益	—
有価証券売却損	—
有価証券評価損	70,988
有価証券償還損	—
為替差損	—
その他費用及び損失	1,085
収支差計	▲106,475

※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

#### ■特別勘定資産の内訳

項目	ライフプロデュース世界債券	
	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	133,238	4.0
その他有価証券	3,163,013	96.0
合計	3,296,251	100.0

- ※ 特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下《参考情報》に記載しております。
- ※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

### 《参考情報》 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンドー1 [2017年3月 末日現在]

#### ■利用する投資信託について

【投資信託名】 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンドー1  
 【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社  
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国の投資適格債(BBB格以上)を投資対象に相対的投資価値分析を基本として信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。  
 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。  
 ※ 当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド受益証券に投資します。

#### ■当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	0.18%	▲2.24%	3.38%	▲3.70%	4.61%	41.16%
BM	▲0.27%	▲2.56%	1.89%	▲4.32%	4.57%	38.53%
差	0.46%	0.33%	1.50%	0.61%	0.04%	2.63%

- ※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。
- ※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
- ※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、シティ世界国債インデックス(円ベース)<sup>4)</sup>です。

#### ■マザーファンド受益証券の詳細情報

##### ○ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
					ムーディーズ	S&P	
1	米国国債	アメリカ	1.125%	2021年07月31日	Aaa	AA+	5.99%
2	米国国債	アメリカ	1.125%	2021年02月28日	Aaa	AA+	5.12%
3	日本国債	日本	0.100%	2026年03月10日	A1	A+	4.17%
4	米国国債	アメリカ	2.000%	2026年11月15日	Aaa	AA+	2.90%
5	米国国債	アメリカ	0.125%	2019年04月15日	Aaa	AA+	2.75%
6	イタリア国債	イタリア	2.000%	2025年12月01日	Baa2	BBB-	2.54%
7	イタリア国債	イタリア	1.350%	2022年04月15日	Baa2	BBB-	2.48%
8	日本国債	日本	1.400%	2034年09月20日	A1	A+	2.45%
9	カナダ・ハウジング・トラスト	カナダ	3.800%	2021年06月15日	Aaa	AAA	2.34%
10	イタリア国債	イタリア	4.500%	2018年08月01日	Baa2	BBB-	2.05%
合計							32.78%
組入銘柄数							156銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。 ・ 3ページおよび6ページ～8ページに記載されている「\*1～\*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

#### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>



# 年金払定期付積立型変額保険

## 用語説明

- \*1 「リバランス」とは、当初決定した資産配分比率に調整することをいいます。
- \*2 「TOPIX(東証株価指数 配当込)」とは、東京証券取引所第一部に上場されている普通株式全銘柄の浮動株調整後の時価総額を指数化し、配当収益を考慮したインデックスであり、市場全体の動向を反映するものです。TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(以下「東京証券取引所」)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- \*3 「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc.が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCIワールド・インデックス(配当込み・クロス・日本円換算)は、MSCIワールド・インデックス(配当込み・クロス・ドル建て)をもとに、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて委託会社が円ベースに換算したものです。
- \*4 「シティ世界国債インデックス(円ベース)」とは、Citigroup Index LLCが算出・公表する指数で、1984年12月末日を100として世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均し指数化したものです。シティ世界国債インデックス(円ベース)に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はCitigroup Index LLCに帰属します。

## 年金払定期付積立型変額保険のリスクおよび諸費用について ①

### 【投資リスクについて】

この保険は積立金額、払いもどし金額および満期保険金額などが特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額保険です。特別勘定資産の運用には、資産配分リスク、株価変動リスク、金利変動リスク、信用リスク、カントリー・リスク、流動性リスク、為替リスク、派生商品取引のリスクなどがあり、ご契約を解約した場合の払いもどし金額や満期保険金額などが払込保険料総額を下回る場合があります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、これらのリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待どおりでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

### 【諸費用について】

お客様にご負担いただく費用は、危険保険料、各保険契約管理費、および運用関係費の合計額となります。

### <第1回の年金のお支払事由発生前にかかる費用>

項目	費用	備考
危険保険料	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に、危険保険料率を乗じた金額	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費(保険料比例部分) *契約日が2013年10月1日以前のご契約者様	保険料(任意一時払保険料を除く)に対し、 <b>3.00%</b>	各保険料を特別勘定に繰り入れる際、当該保険料から控除して積立金に充当します。
保険契約管理費(保険料比例部分) *契約日が2013年10月2日以降のご契約者様	保険料(任意一時払保険料を除く)に対し、 <b>5.00%</b>	各保険料を特別勘定に繰り入れる際、当該保険料から控除して積立金に充当します。
保険契約管理費(定額部分)	毎月250円(固定費)	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費(危険保険金額比例部分)	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に対し、 <b>0.01%/月</b>	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費(積立金額比例部分)	積立金額に対し、 <b>年率1.00%</b> (1.00%/365日を乗じた金額)	毎日、積立金から控除します。

※ 危険保険料は、危険保険金額が積立金額の変動などによって変動するため、費用の発生前に具体的な金額を記載することが困難であり、表示することはできません。

また、危険保険料率は、被保険者の年齢、性別によって異なります。詳しくは、「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。

### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

## 年金払定期付積立型変額保険のリスクおよび諸費用について ②

### <積立金の移転や解約などにかかる費用>

項目	時期	費用	備考
積立金移転費用	積立金の移転時	【書面による移転申込みの場合】 月1回目1,500円、 2回目以降は1回につき2,300円 <sup>(*)</sup>	毎回の移転について積立金から控除します。
		【インターネットによる移転申込みの場合】 月1回の積立金の移転は無料、 2回目からは1回につき800円 <sup>(*)</sup>	1カ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、 2回目からの移転について積立金から控除します。
解約控除	解約時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%~1%を乗じた金額)と危険保険金に対する解約控除額(危険保険金に解約控除率0.50%~0.05%を乗じた金額)の合計額	解約日のご契約日より起算して10年未満の場合には、経過年数(1年未満切上げ)に応じて、積立金に対する解約控除額(10%~1%)と危険保険金に対する解約控除額(0.50%~0.05%)の合計額を解約日の翌営業日の積立金額から控除します。
	積立金の一部引出時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%~1%を乗じた金額)	一部引出日が契約日より起算して10年未満の場合には、経過年数に応じて計算した金額を、一部引出請求金額から控除します。

(\*) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行った回数

※ 積立金移転時は、その際必要となる移転費用の2倍相当額以上の積立金残高が必要です。

※ 解約控除の詳細については、「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。

※ 基本年金年額の減額、ご契約の型の変更、保険期間の短縮の際にも、危険保険金額の減額により、危険保険金額に対する解約控除が適用される場合があります。

※ 将来、前記の内容が変更になることがあります。

○ 毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額が1,000万円を超える場合、保険契約管理費(危険保険金額比例部分)に高額割引制度が適用され費用が少なくなります。ただし、基本年金年額の減額や積立金額の増加などにより、危険保険金額が1,000万円以下となった場合には、高額割引は適用されなくなります。

### ●運用関係の費用

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフプロデュース30 年率0.55512%程度 <sup>(*)</sup> (税抜年率0.5140%程度)	投資信託の純資産額に対して、毎日積立金から控除します。
		ライフプロデュース50 年率0.55080%程度 <sup>(*)</sup> (税抜年率0.5100%程度)	
		ライフプロデュース70 年率0.54648%程度 <sup>(*)</sup> (税抜年率0.5060%程度)	
		ライフプロデュース日本株式 年率0.88560%程度 (税抜年率0.8200%程度)	
		ライフプロデュース世界株式 年率0.54000%程度 <sup>(*)</sup> (税抜年率0.5000%程度)	
		ライフプロデュース世界債券 年率0.56160%程度 (税抜年率0.5200%程度)	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。

信託報酬のほか、信託事務の諸費用など、有価証券の売買委託手数料および消費税などの税金などの諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量などによって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動などの理由により、将来変更される可能性があります。

※ 「ライフプロデュース30」「ライフプロデュース50」「ライフプロデュース70」の運用関係費は、主な投資対象である投資信託の信託報酬率を基本資産配分比率で加重平均した概算値です。各投資信託の信託報酬率はそれぞれ異なりますので、各投資信託の価格の変動などに伴う実際の配分比率の変動により、運用関係費も若干変動します。

(\*) 「ライフプロデュース30」「ライフプロデュース50」「ライフプロデュース70」「ライフプロデュース世界株式」の運用関係費は、2015年10月に新たに投資することになった投資信託の信託報酬率を元にしたものです。2015年10月に償還、全部売却された投資信託の信託報酬率を元にしたものは下記のとおりです。

ライフプロデュース30:年率0.7992%程度 (税抜年率0.74%程度)、ライフプロデュース50:年率0.8532%程度 (税抜年率0.79%程度)、

ライフプロデュース70:年率0.9072%程度 (税抜年率0.84%程度)、ライフプロデュース世界株式:年率0.9180%程度 (税抜年率0.85%程度)。

### <第1回の年金のお支払事由発生以後にかかる費用>

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の契約応当日	支払年金額の1.0%*	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

\* 記載の費用は上限です。年金管理費は、将来変更となる可能性があります。